

第2次
日南町子どもの読書活動推進計画

日南町教育委員会

令和4年3月

第2次 日南町子どもの読書活動推進計画

第1章 はじめに

- 1 現状と課題
- 2 対象と期間

第2章 計画の基本方針

- 1 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の整備
- 2 家庭・地域・保育園（こども園）・学校・図書館が連携した町全体での取り組み
- 3 子どもの読書活動に関する理解と関心の啓発

第3章 子どもの読書活動推進のための方策

- 1 乳幼児期における読書活動の推進
 - (1) 家庭での取り組み
 - (2) 保育園（こども園）での取り組み
 - (3) 子育て支援施設における取り組み
- 2 学齢期における読書活動の推進
 - (1) 家庭での取り組み
 - (2) 小学校での取り組み
 - (3) 中学校での取り組み
- 3 図書館における読書活動の推進
 - (1) 児童書の充実
 - (2) 子どもが本と出会う機会の提供
 - (3) 子どもが情報活用能力を身につけるための支援
 - (4) 子どもの読書活動に携わる関係機関や地域の支援
 - (5) 子どもの読書活動に関する理解と関心の啓発
 - (6) 子どもの読書活動推進に関わる人材の育成
 - (7) 高校生へ向けた取り組み

第2次 日南町子どもの読書活動推進計画

第1章 はじめに

1 現状と課題

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きていく力を身につけていく上で欠かすことのできないものであり、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるように、社会全体で積極的にそのための環境づくりを推進していくことが重要です。

日南町では、平成19年2月に「日南町子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもたちが、豊かな人間性と生き抜く力を育み、次世代を創造する優れた人材に成長することを願い、子どもが読書に親しむ機会の提供と環境の整備に取り組んできました。

しかしながら、「日南町子どもの読書活動推進計画」策定から10年以上が経過し、8校あった小学校が統合され、一部の保育園（こども園）も休園になるなど学びの環境が大きく変化しました。スマートフォンや携帯ゲーム機の普及、コミュニケーションツールの多様化により、子どもたちの読書に充てる時間が減少しています。

図書館が令和2年に小学生中学年以上の児童・生徒を対象におこなった「子どもの読書活動に関するアンケート」の回答によると、「読書がすき」という答えが多い一方で、自力で本を読むようになる小学生から年齢が高くなるにしたがって読書の量が少なくなる傾向があります。また、「学校から家に帰った後、ゲームやインターネットをしたり、テレビを見たりする時間はどれくらいですか」の設問では、およそ7割が2時間以上と答えるなど、子どもたちの生活の中でそれらを利用する時間が増えており、利用の低年齢化もみられます。これらことから、ゲームやインターネットなどが子どもの読書活動にも少なからず影響をあたえていると考えます。

日南町では、このような社会や子どもたちの読書に関わる環境の変化も視野に入れながら、本計画を策定し、子どもたちの成長に応じた読書活動を推進します。

2 対象と期間

本計画は、0歳から概ね18歳までを対象とし、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

第2章 計画の基本方針

1 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の整備

子どもが自主的に読書に親しむ習慣を身につけるためには、乳幼児から本のおもしろさや読書の楽しさを知ることが大切です。家庭・保育園（こども園）・学校・地域・図書館では、その出会いのきっかけをつくっていかねばなりません。そのためには、子どもたち

一人一人の発達や読書経験を考慮しながら、興味や関心にあった本を子どもに紹介し、子どもへの手の届くところに本がある環境を整えることが必要です。

日南町では子どもの自主的な読書習慣を身につけることを目的とし、子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の整備に努めます。

2 家庭・地域・保育園（こども園）・学校・図書館が連携した町全体での取り組み

子どもの自主的な読書活動の推進のためには、家庭・地域・保育園（こども園）・学校・図書館など生活のあらゆる場面で子どもが読書に親しむ機会をつくっていく必要があります。その上でお互いが協力し連携し町全体で子どもの読書を支援する取組を行うことで、自主的な読書活動の推進により一層の効果が生まれると考えます。

日南町では子どもの読書活動推進に関わる人々が連携し、町全体で子どもの自主的な読書活動を支える取組に努めます。

3 子どもの読書活動に関する理解と関心の啓発

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、まず子どもの身近にいる大人自身が本に親しみ、子どもの読書活動の意義や重要性について理解と関心を深めることが必要です。親から子へ、大人から子どもへと読書活動の魅力を伝えていくことが求められます。

日南町では子どもの自主的な読書活動を推進するために、町民が読書活動の意義や大切さについて理解を深め、関心を高めるよう普及や啓発に努めます。

第3章 子どもの読書活動推進のための方策

1 乳幼児期における読書活動の推進

この時期の子どもたちは、身近な大人たちと関わることではじめて本と出会うことができます。読み手である大人と本の楽しさを共有するところから、子どもたちの読書活動がスタートします。まだ言葉や絵を認識できない子どもたちも、本を通して身近な大人と時間をともに過ごすことに意義があります。

保育園（こども園）の保護者を対象としたアンケートの結果では、ほとんどの保護者が本を読むことは子どもの成長において必要と考えていますが、保育園（こども園）卒園まで毎日読み聞かせをしている家庭は半数程度にとどまっていました。保育園（こども園）、子育てに関わる支援施設では、図書館と連携をしながら読書環境の整備に努めるとともに、家庭へ向けた読書活動の啓発を行います。

（1）家庭での取り組み

- ・大人と子どもが、本を通じてふれあう時間を共有する機会をつくります。
- ・大人たち自身も読書を楽しみます。

（2）保育園（こども園）での取り組み

- ・図書館とも連携しながら子どもの発達段階にあった本の充実に努めます。
- ・読み聞かせの時間を設け、子どもたちがより本と親しむ機会を提供します。

- ・家庭での読書活動を推進するために、図書館と連携して保護者への啓発活動を継続して行います。
- ・家庭でのふれあいや読書の時間を大切にするため、メディアとのかかわり方の指導に取り組みます。

(3) 子育て支援施設での取り組み

- ・家庭での読書活動を推進するために、図書館などと連携して保護者への読書活動の啓発を行います。

2 学齢期における読書活動の推進

小学生になると読み聞かせだけでなく、一人で本を読むようになり、語彙の量が増え、その場面の情景をイメージできるようになります。本の良さを味わうことができ、多読から、好みのものへと読書の傾向も変化していきます。

アンケート結果をみると、多くの児童・生徒が読書に興味を持っているにもかかわらず、年齢が高くなるにつれ、子どもによって読書習慣の差が生じていることがわかります。一人一人に応じた読書活動の支援が必要となります。

(1) 家庭での取り組み

- ・いつでも身近に本を手にとれる環境をつくります。
- ・子どもに読み聞かせをしたり、一緒に本を読んだりするなどして、読書のきっかけを作ります。
- ・大人たち自身が読書を楽しむことで、子どもの読書への意欲を向上させます。

(2) 小学校での取り組み

ア 学校における図書の実態

- ・発達段階に合った図書を児童がいつでも手に取れる環境を学校図書館や教室に作ります。
- ・読み物だけでなく、子どもたちの知的好奇心を満たすような本、学習に役立つ本の充実に努めます。

イ 発達に応じた読書指導

- ・司書教諭、学校図書館司書を配置し、全職員が児童一人一人の発達段階に合った読書指導を行います。
- ・あらゆる学習の基本となる「読み取る力」を児童が身につけられるように導きます。

ウ 読書時間の確保

- ・朝読書など児童が集中して読書に取り組む時間を確保し、読書意欲の向上を目指します。

エ 学習における図書資料の積極的利用

- ・学習に役立つ資料を児童に提供し、学習支援を行います。

オ 特別な支援が必要な児童に対する読書指導

- ・児童一人一人の状況に応じた読書活動が充実するように、図書館とも連携しながら発達段階に応じた読書指導を行います。

カ 家庭との連携

- ・学校での読書活動へ保護者の参加を促し、保護者へ読書活動の啓発を行います。
- ・PTA等と連携して読書習慣化の取り組みを行います。

(3) 中学校での取り組み

ア 学校における図書の充実

- ・町の図書館とも連携しながら学校図書館や教室にいつでも本を手にとれる環境を作ることで、読書の機会を充実させ、多様な図書に触れる機会をつくります。

イ 生徒に応じた読書指導

- ・学校図書館司書を配置し、担任、司書教諭と連携しながら、生徒一人一人に応じた読書指導を行います。
- ・学校図書館や図書を活用し、「情報を収集する力」「考えをまとめる力」「考えを深める力」が身につけられるような指導を行います。

ウ 読書時間の確保

- ・朝読書など生徒が集中して読書に取り組む時間を確保し、読書意欲の向上を目指します。

エ 学習における図書館の積極的利用

- ・図書館を「学びの場」として位置づけ、各教科担当と連携しながら、授業に役立つ資料の充実と提供に努めます。

オ 特別な支援が必要な生徒に対する読書指導

- ・一人一人の状況に応じた読書活動が充実するように、図書館とも連携しながら生徒の発達段階に応じた読書指導を行います。

3 図書館における読書活動の推進

図書館は地域における読書活動の中心的役割を果し、他機関と連携・協力しながら、子どもの読書活動に関わるさまざまなところで身近に本のある環境づくりに取り組む必要があります。

(1) 児童書の充実

- ・個人利用のみならず、保育園（こども園）や学校など子どもの読書に携わる団体に積極的に貸し出し支援を行うために、子どものニーズに合った幅広い分野の児童書の充実に努めます。

(2) 子どもが本と出合う機会の提供

- ・図書館まつりやイベントを開催することで、より多くの人の利用を促し、読書意欲の向上につながるよう努めます。

- (3) 子どもが情報活用能力を身につけるための支援
- ・幼児から大人へと子どもたちが成長していく過程の中で、本を読んだり調べたりしたことを活用し、自ら考え、判断して、行動できる資質や能力など「生きる力」を養うための支援をします。
- (4) 子どもの読書活動に携わる関係機関(保育園・学校・子育て支援担当課など)や地域の支援
- ・関係機関や地域にでかけブックトークや読み聞かせをして、子どもたちがさまざまな本と出会う機会をつくります。
 - ・学校に対し、本を用いた調べ学習の支援をします。
 - ・子育て支援担当課と連携し、ブックスタート事業を支援することで、家庭でも子どものすぐそばに本がある環境づくりを目指し、親子で本と触れ合えるきっかけづくりに努めます。
- (5) 子どもの読書活動に関する理解と関心の啓発
- ・保護者や子どもを取りまく大人にむけて、子どもの読書活動の意義や大切さについて理解を深め、関心を高めるよう普及や啓発に努めます。
 - ・子どもを取り巻くすべての大人が本を楽しむような取り組みを行います。
- (6) 子どもの読書活動推進に関わる人材の育成
- ・読み聞かせボランティアなどと連携し、読書活動に関わる人材を育成するとともに資質の向上に努めます。
- (7) 高校生へ向けた取り組み
- ・高校生に向けた図書のさらなる充実を目指すとともに、新たな情報発信を行います。
 - ・日野郡公設塾「まなびや縁側」(日南町拠点)に高校生を対象とした図書コーナーを設置します。